

平成16年6月24日発行

発行 真福寺

■ 破 れ 窓 理 論

平成16年4月22日読売新聞に「ジュリアーノ前ニューヨーク市長」がこの理論を語った。

「破れ窓理論」とは、社会をビルのようなものだと考える。

窓が一つ壊されたビルを見て、「一つくらいならいいだろう」と放置しておけば、窓は次々に壊され、やがてはビル全体が瓦解してしまう。それと同じように、小さな犯罪を見逃して、その都市を、自分の「しゃば」だと犯罪者に思わせてはならない。そう思わせてしまったら、より重大な犯罪が横行することになる。

小事を大切に処理することが、大事を解決する方程式となる。

【「破れ窓理論」は1982年に米国の学者が提唱した犯罪抑止理論。「建物の窓を割れたまま放置しておく、その建物は管理者がいなと思われ、ほかの窓も次々と割られて建物全体が荒廃する。それと同じように、小さな犯罪を見逃すと、やがて地域全体の治安が悪化していく。このため、軽微な犯罪を徹底的に取り締まることで、より重大な犯罪を抑止し、地域の安全を守ることにつながる」とする考え方。】

家庭生活や地域社会の健全な安心できる環境を保全するために、この「破れ窓理論」の考え方を参考にすべきだ。

親が子供を叱れない、しつけられないそんな家庭がふえている。

家庭が社会人として生きていく作法というルールを伝授していないのです。日常のあいさつ・玄関の靴揃えなどの家庭のしつけ礼儀作法の小窓が破れて家庭崩壊につながることも考えられる。社会に巣立つための準備期間が家庭生活の日常生活から学ぶ幼児期だと思えます。この親が子供を育てる時期に日常生活の基礎を擦り込んでいない家庭が増えているのです。

あたりまえの礼儀作法やあいさつという家庭の窓がなにげなく子供たちにより割られているのに大人が注意しあいさつの繰り返しを指導しないために、ため口をきく子供になり、家庭内暴力に発展し、社会に害を撒く家庭の荒廃につながるのです。

■ 言語のしつけ 『わが子に伝える「絶対語感」』 外山滋比古著を参考

乳幼児期の母乳語を30カ月、離乳語を30カ月として、合わせて60カ月、この時期をきちんとしつけることができれば、こどもの、はじめのことばのインプリンティングつまり反復習得は、まず、完了したとみることができる。

この擦り込みが、うまくいくかどうかで、こどもの一生の能力が大きく違ってくるのです。昔の人が「三つ子の魂百まで」と言ったのは、まさにこの時期のことです。ことばだけでなく、人間の精神的個性というものが、この間に決定されることを、昔の人は、直感的にとらえていたのでしょう。

三才までの時期は、文字以前のことばが自然に習得される時期で、耳の賢明さというものを育てるのに、決定的に大切な時期なのです。

現代は、文字に偏った教育だけに頼り、耳で聴く訓練、擦り込みがおろそかにされています。耳の賢明さを身につけぬまま、年とっていく人がたくさんいる。

会話のなりたたない世代の増加と、たわいもないことで殺人事件や喧嘩に発展する人たちや若者が増加する。

3歳までの「言語のしつけ」をできない両親に育てられているこどもが増加し、その子供たちが、耳の賢明さを身につけぬまま、年をとり、会話のなりたたない世代として次代を背負っていくスパイラルに陥っているのが現代社会のような気がしてなりません。法則には、存在の法則、または自然の法則と称するものと、規範の法則、または当然の法則と称するものがある。

規範の法則が崩壊すると、国で言えば国家の滅亡・消失となり、滅亡した国家に所属した国民は流民・難民となり他国支配となった亡国の大地に生活する隷属的扱いをうける民となる。社会では、無秩序な不安定な自己防衛の空間となる。

学校崩壊、家庭崩壊、が叫ばれるように、崩壊という現象があらゆるところから噴出するのです。

新たな社会秩序の構築のために、旧来の規範の法則を崩壊させるという理由付けをする人たちもいる。しかし、代替案が提出されずに実行されている場合が多いのではないかと思う。

人間は太古の昔より、父母の縁で生まれ、父母に育てられて、成長し独立していった。独立した彼らは新しい家庭を営み、その子供たちが、父母となり子育てをして次代の子供たちを世に送り出すという行為を年々歳歳繰り返して現代まで営々と人類は命のバトンをつないできた。

その命のつながりと精神的成長に欠かせない作法が「三つ子の魂百まで」といわれる、3歳までの「言語のしつけ」であったのです。

現代社会において人間の基本作法である、その3歳までの「言語のしつけ」が崩壊しつつあるのです。

難書百読ということばがある。繰り返し読むうちにわからない意味もわかるようになる。という意味です。

母親が、幼児に繰り返し語りかけることでことばがこどもの心に染み込んでいきます。愛情あるところで語りかけることで優しさと癒される安心の心が培われます。

ことばの習得は、一にも二にも、くりかえしです。すべての学習の基本は、反復と継続であって、どんなに困難なことでも、これによって完全に体得できないものはほとんどありません。なかでも、もっとも早く、もっとも顕著なケースが、ことばの習得です。

■ 絶対語感 外山滋比古が使っている表現です。

現代の子供たちは、アニメ・劇などで粗暴な言葉で会話するものをよしとしてまねる。そのため日常生活で粗暴な言葉で会話することに疑問を持たないこどもが増加している。結果、子供が父母・大人に対して敬意・尊敬・あいさつを欠く対話形式をとることになる。親も、地域の大人もしつけられないこどもが増加することになる。

小学生以下の子供たちが読んだり見たりするマンガドラマでインプリンティングされた不敬不遜の討論、対話形式で育った子供たちが大人になり社会人に成長している現代人が増加している。平成16年6月1日長崎県佐世保市で小学6年の女子が同級生の女子をナイフで首を切り殺害する事件がおこった。ホーム・ページのメールのやりとりからトラブルとなったようである。上記のこの種の事件におもえます。

知識の言葉でない、遊びの中で覚えたことばがこどもの成長にとって大事な言葉なのである。親子の会話と日常生活のなかでおぼえていく生活習慣でおぼえていく「ことば」よりゲームやテレビおよびパソコンから受け取る生活習慣でおぼえる「ことば」が優先されている昨今のこどもたちの生活環境とすることができる。

つまり、遊びのゲームやテレビおよびパソコンから発送される画像の「言葉」による影響が子供たちを変えていくのです。

「ことばは人なり、人はことばなり」ということです。美しいと感じる詩や文学、言葉には、そのことばを使っている人への信頼が裏面にあるからです。

自分にとっての利権は善であり、他者が自分を不利益にする利権は悪としている。利権はすべて悪ではないのです。

権力が背後になれば、会話に迫力や威力が消失するのが現実である。

信用・尊敬と権力はカードの裏表の関係にあると考えます。

裏付けのある話は信用される。肩書はその人の信用であり、力を意味する。

ことばは人間とはなれて存在できません。

使う人によって同じことばがみにくく思われたり、逆に味わい深ものを感じられたりするものです。きちんとして絶対語感を身につけた人は、そのことばによって美しくもみえるし、また、ことばによって自らを美しく磨くこともできるのです。

しっかりした耳のことば、目のことばを身につけることが人生の宝になるというのはそのためです。

マイフェアレディーの社会的背景にイギリスの階級社会があります。

人は、その話すことばによって、美しくもなり、立派にもなるという考えがあります。そして、エライザとヒギンズ先生のあいだでなされたことばの教育を通じて話すことばが変化して行き、コックニーがクィーンズになるのです。

ことばという物差しに変換して人を評価すれば、急には人間の社会的評価基準は変化しない。

使うことばは一生だいたい同じことばを使っています。

ことばによって人を判断することがもっとも安全といえるのです。

生まれてくる子どもに、美しい名前をつけようというのは親心です。

その名前には、子どもが美しき人間になるように、という願いがこめられていることを親があまり認識せずわかっていない。

名前はたんなる標識ではない。その人間を決定する力を秘めている。

人間は再生できない、一回きりの人生しかないために、その人間の不可逆的再生の人生を美しく幸福な一生を送ってほしいという親の真心で子どもに名前をつけるのである。

親の不心得な気持ちで「悪魔」という名前をつけた人が過去にいました。

こうした名前を親が自由裁量のもとで子どもにつけた、親の子どもに対する親心を疑いたくなります。「悪魔あくま」の中に美しい語感が感じられないのです。

子どもの将来に平安・幸福と美しい宝をみいだすことができないのです。

子どもも自分にたいして、美しくなろうとする希望が生まれてこないように思えます。

美しいことばとは、美しい人、尊敬すべき生き方をしている人、教養ある人が使っていることばです。もし、いま美しいことばが少なくなっているとするなら、心の美しい人間が少ないということです。

ただし、人間の生き方を考えず、ただ美しいことばばかり求めようとするのは「木に縁って魚を求める」ようなもので、内容のない空虚なものとなってしまいます。

ちなみに、有名校に入れるための塾熱はまさに社会人として不利益な生活を送らない利権を獲得するための先行投資として親が子供にたいする学習熱といえる。子供たちが成長し大人になってから安定した生活を獲得するために課している親から子供に対する学習強要ともいえる。

親の願望が子供に反映し、親の子育ての姿勢が子供に反映するのです。

■ 一人はみんなのため

みんなは一人のため

高校時代の恩師淡路先生が授業中、黒板に大きく書いたものです。

ホーム・ルーム時間は班活動を中心に班ごとに5、6人で討論をする。高校生のあり方、クラスを良くするにはどうするか。自分だけのことを考えるような人間になるなどか。いろいろなことを提案してはクラスの中で会話をさせた。何を話していいのかわからず語り合うのです。今にして思えば、その当時のわれわれは連帯感とか何かを言葉による人間的ふれあいを自然と会話をとおして体感していたのでしょ

う。50代になって、30数年前の青春時代の滅茶苦茶な討論がよい修練の場だったことを痛感します。

人間は言葉をとおして人間になれる。言葉が他人と交流をはかってくれるのです。思想信条をこえ、日本の大地に生きている我々に必要なことは、日本人同士で語り合う習慣を身に付けることです。

淡路先生が高校時代に「語り合う場」を保証し提供してくれたことのありがたさを30年後のいま痛感しています。

若いとき野蛮な吠えあうような会話をとおして、やがて人間らしい会話に成長していくのです。会話の作法も訓練が必要です。

ゲーム・ボーイ、パソコンゲームなど人間と機械のあいだには、血の通った感情の人間同士の交流の温かさはない。

人間同士の対話会話をとおし社会生活のできる人間に成長する。

突然会話ができる人間になれるのでなく、順序だって少しずつ会話の訓練を積むことで成長をしていく時期が青春時代なのです。

突然には文章が書けない。唐突に討論対話ができるものではない。

いまの若者に欠けているものは、子供同士で本音で語り合う訓練を教育されていないことです。会話の大切さを忘れてのこと

です。人間の人間たる基本は情報交換の場に必要

な会話による心の交流にある。第3者との対話経験を教育されていない若者が増加し、他人と会話ができない若者が増え、感情の表現ができず「キレ」やすい若者を生む原因にもなっている。一方通行の自己中心的会話しかできない今の若者が、交互通行できる会話を学

んでほしいものです。

■ 帰 家 隠 座

“還る家”があるからまた旅に出られる。

【「おまえは負け犬なんだぞ。。。。」息子にそう言ったまま、ある父親は、悔しい気持ち、苦しい気持ち、やるせない気持ちを押し殺しました。そして、次の瞬間、その突っ張った父親の背中は、突然揺れて、ふいに涙ぐみました。

「お父さん、おまえの辛そうな顔を見るのが耐えられなかったんだ。それでつい励ましてばかりで．．．ごめんな」うつむく息子はブルブル震える拳の力をスッと抜くと、言ったのです。「お父さんが泣くと、僕が泣けないじゃないか」おえつする声に、私は暖かな場所へ還っていく二人の心を見たような気がしました。人は誰でも”還る家”が必要なのです。

精一杯生きたのに報われない時、みじめで情けなくて、どうしようもなく孤独な時、そんな自分でも「それでいいよ」と諦めでもなく、なぐさめでもなく待っていてくれる誰か。

いつでも「お帰りなさい」と受けとめくれる暖かい思い出。

どんな自分でも、かけがいのない存在として「おまえが必要なのだ」と肯定してくれる彷徨の終着点。止まり木。そんな”還る家”があるから人は娑婆の現実に耐えて生きられる．．．】
「弱音を吐ければ道は開ける」富田富士也著ヨリ

家庭のぬくもりを欲しがっている子供たちや大人たちが町にあふれています。生きていることの御縁を大切にしましょう。安心して休める休息の場が家庭です。

「お帰り」と迎えてくれる家に帰り腹から笑い腹から怒れる安心の信頼関係がある家庭は、心のオアシスかもしれません。多くを求めずともよいのです。小欲知足です。

報われる幸せ、理解してもらえる幸せ、認めてもらえる幸せ、家族で笑える幸せ、苦勞をしながら共有できる経験の幸せ。夢を語り合える幸せ、家庭には無条件で休める幸せがある。

そんな家庭を創って行ってほしいのです。 チャチャ平成16年3月12日没

■ ご 縁 と お か げ さ ま

俺が俺がの世界からは「生かされている、ありがとう」の心はうまれません。

自分の限界を知ると「俺が生きている」路線から「おかげさまで生かされて

いる、ご縁とおかげさま」の路線にUターンするものである。円覚寺派管長足立大進老師のことばより

妙心寺派管長西山義保老師は”「不幸はこれ道の幸なり」というが、人間は健康に恵まれていたら、道を求めることはありません。

けれど病気になって苦しんで初めて、「生とは死とは何か」という問題と向き合い、悩み、道を求め始めるのです。”

”自分のために計らうのでなく、全て人のために施すといった慈悲の心に満ちている”ことが大切です。

人生は人と人の出会いで織り成され、縁とありがとうの心に支えられて幸福ないとなみが実現できるのです。

生きる原点を追求するならば「古典を大切にすべき」と管長さんは語り。そして、例として、マッカーサーに対して日本の敗戦の理由を吉田首相は「昔の将軍はよく古典を読んだが、今の将軍は古典を読まない、その違いである」と語った。

私は古典こそ日本人独自の精神性が凝縮されていると思うのです。

その国に根ざした豊かな人間性を育む教育こそが必要であり、今それが最も欠けている部分ではないでしょうか。と語りました。

過去の先人の残した古典を大切に。先人のご縁を大切にすることが、未来のご縁を大切にすることになります。

白川静名誉教授は「文字を奪われた日本人」の文中で「今の学校では、大人になるための教育がなされていない。かつて漢文・古典が果たしてきたような直接、人格形成に役立つような教科はなくなってしまっている。これこそ戦後教育の欠陥を象徴的にあらわしている。漢字をはじめとする自らの文化的蓄積を軽んじると新しい文化を摂取し生み出す力も衰える」と言っています。日本人として過去から伝承してきたご縁の蓄積を大切に。そのことが日本人の文化の継承にほかなりません。日本を大切に。大人を育てないと将来の日本はないのです。

■ 親 と 先 祖 と 太 陽 は

い く ら 拝 ん で も 拝 み 足 り な い

南方仏教の教え「親に対する、子どもの五つの責任」

- 親は、赤ん坊のときから自分で生活できるようになるまで深い愛情で育ててくれたのですから偉大な恩人です。多大な恩を受けた子どもは恩

返しをしなければなりません。

年老いた親を大切にし、亡くなるまで養うのは子どもの責任です。

- 親が必要としている用事があれば、急いで親のもとに行って、それを成し遂げ喜んでもらう責任があります。
- 親がつくり、守り、貯えた所有物を失わないように保護する責任があります。とりわけ、先祖から受け継がれた物や心を大切に、親を安心させる責任のあることを忘れてはなりません。
- 遺産を継ぐことのできるのは、親に対する責任を果たした子どもに限ります。親に反抗し、親を見捨て、親を喜ばし安心させることのできない子どもは、遺産を継ぐべき資格はありません。
- 親が亡くなったら、供養をしなければなりません。なぜなら、いちばん近い先祖は親だからです。いちばん近い子孫は子どもです。ですから子孫である子どもは先祖、つまり亡き両親の供養をする責任があるのです。

私が考えた五つの忘れ物

- ① この世にたった一つしかない大切な命であることを、自分が生かされていることに感謝する心を忘れていませんか。
- ② 親に産んでもらった命であり、その産んでくれた親に「ありがとう」の心を忘れていませんか。
- ③ 親に守ってもらい育ててもらった命であることを忘れていませんか。大切に育ててくれた親に「ありがとう」の心を
- ④ 地球誕生から45億年ガマンして今、やっと命の誕生が実現した大切な我が身であることを忘れていませんか
- ⑤ 死んでしまうと、二度と再生できない大切な命であることを忘れていませんか。納得のいく人生を生きて命は輝きます。